

献 辞

経済学部での研究・教育にご尽力いただいた鈴木章俊教授が定年を迎えられ、2021年3月末をもって専修大学を退職されることとなりました。私たち経済学部スタッフ一同は、これまでのご功績に対して『専修経済学論集』第55巻第3号（通巻138号）を「鈴木章俊教授退職記念号」として呈上し、衷心より感謝の意を表したいと思えます。

鈴木教授は、1973年に立教大学経済学部を卒業後、同年に専修大学大学院経済学研究科に進学され、1982年に専修大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学後、1986年に専修大学北海道短期大学専任講師に就任され、その後同短期大学助教授・教授を経て、2013年4月、専修大学経済学部に教授として着任され、今日に至ります。この間、1997年より1998年にかけて南イリノイ州立大学カーボンデール校にて在外研究に従事され、2002年には専修大学より博士（経済学）の学位を授与されています。

主にご担当いただいたのは、学部での「経済思想」「社会科学論」「経済と社会」「経済の世界」「ゼミナール」等、大学院での「経済学史特論」「経済学史特論演習」等でした。また、学内行政等の面では、二部学生部委員、図書館委員、経済学科カリキュラム委員等の重要な役職を歴任されました。

学会活動の面では、経済学史学会、社会思想史学会、社会経済史学会、日本社会学会等で活躍されました。

鈴木教授の研究をふりかえってみたとき、主としてマックス・ヴェーバー研究を中心とする、経済学史・社会学史・社会思想史・経済思想史、およびそれらを基盤とする文明論までにおよぶ分野において多大な貢献をしてこられました。鈴木教授の業績は、主著『ヴェーバー的方法の未来』（日本経済評論社、2001年5月）をはじめとする、マックス・ヴェーバーの社会科学方法論をめぐる緻密な考察から、論文「文明の構造と進化—衝突する諸文明にもとづく「世界秩序再構築」への批判」（『専修大学北海道短期大学紀要』第37号、2004年）などのように壮大なビジョンを提示するものまで多岐にわたっています。これらの研究業績は、鈴木教授の現代世界に対する鋭利な問題意識と、それに取り組む大きな熱意を我々に伝えてくれるものであると言えるで

しょう。

ご退職にあたり、次のようなメッセージをいただいております。

私が専修大学にお世話になったのは、大学院生から通算47年間になります。大学院に修士・博士と9年在籍し、その後聴講生として4年在籍いたしました。専修大学北海道短期大学には、26年間勤務いたしました。北海道短期大学が残念なことに閉校し、私は専修大学に移り、8年勤務したことになります。専修大学での8年間は、授業・ゼミナールを通して自分の考えをまとめることができたという点で特に有意義なものでした。短大時代の最後には、商経社会総合学科長として最後の未卒業学生を卒業させ、希望の進路に向かわせるという仕事をしました。専修大学で何らかの学問上の貢献をと思い、友人トマス・バーガーの『マックス・ヴェーバーの概念形成論』の翻訳の完成に取り掛かりましたが、予想外に時間がかかりました。ぜひとも退職前に出版したかったのですが、叶いませんでした。退職後にはなりますが、専修大学出版局から発行できそうです。皆様への何らかの貢献になれば幸いに存じます。

最後に、日ごとに春めく季節になってきたとはいえ、新型コロナウイルス・パンデミックの行方も不透明な中、これまで私たちをご指導いただいた鈴木教授が本学から去られることは、惜別の念に堪えないことではあります。先生には本学を退職された後もご健康にお気をつけて末永くお元気ですごされますようお祈りするとともに、学術研究の世界におけるさらなるご活躍を祈念しております。そして、専修大学及び経済学部の発展のために、折に触れてご助力いただけますようお願い申し上げます。以上、鈴木章俊教授の古稀と定年でのご退職を心より寿ぎつつ、これまで賜ったご指導への深謝の念をこめて私からの献辞とさせていただきます。

2021年3月

専修大学経済学部長 兵頭 淳史